

## 博多ヨットクラブ 沖縄遠征記(座間味レース参加)

私、(トロピカーナ)佐藤克彦は奄美大島、沖縄、石垣島、西表島には計6-7回は旅行していますが、ヨットで島外の海をセーリングしたことはありませんでした。

今回、博多ヨットクラブでこの様な企画がありまして、日程、乗せてもらうヨットと仲間が揃いましたので参加することになりました。

博多ヨットクラブから、他にJ艇のY会長、A艇のO君、I艇のT君、T君も参加し、彼らは宜野湾港マリーナのハーバースターから紹介された地元のレース参加艇に乗船しました。



なるべく安く沖縄往復したいので、直ぐにピーチエアラインを予約。行きは5000円台、帰りは8000円台、初めてのピーチエアです。アビームの風で走るレグが長いので、ジェネカーが威力を発揮するだろうと私のを事前に宅急便で送りました。

6月30日(木曜日)の夜、飛行機で出発。沖縄では、モノレール、タクシーを乗り継いで、宜野湾港マリーナの「那の津号」にたどり着いたのは午後11時頃です。オーナーのK君、M君、K君が待っていてくれました。乾杯して、もろもろの話で盛り上がり、オーナーもだいふ出来上がっていましたし、0時過ぎに眠りにつくことに。陸電が来てるし、家庭用の窓用クーラーがあるので、たぶん何とか眠れるだろう。

翌日の金曜日、午前10時までには乗船予定者10人の内9人が集まり準備。ポジションを決め、練習のための出航は11時くらいになりました。



ポジションはヘルムスマン:佐藤、ランニングバックステイ:K君、M君、メインセールトリーマー:M君、バウマン:N君、マスト:K君、ジブトリーマーRさん、K君、もう一人Kさん、カメラマン:N君妻です。

いよいよ練習です、タック、ジャイブ、ジェネカーを使ってシートのつなぎ方、ホイスト、ジャイブ等を行います。いい天気、風も丁度いい、お腹が空いて何か食べたいがそんな雰囲気ではない。3時間位練習してハーバーに帰ったのが午後3時ぐらい。早速、乾杯して、

昼食。チョット小さいが、レースの前に直しておかなければならない所があるので、補修部品を買いに出かける。各々分担して、買い出しに出かける組もあります。

ヨットに戻り、補修して午後5時からの艇長会議に出席する。7時から、皆で揃って居酒屋で会食、乾杯。明日のレースが上手くいくようにコミュニケーションを図ります。



7月2日(土曜日)のレース当日は7時に集合。前日練習をしているので、なんなく準備してレース海面に。小型艇が8時半スタート、我々は9時スタート。参加は18艇なので、スタート海面はゆったりで、私も久しぶりだし、ポートの風でレグも長いので少し遅れてスタート。まっつめとアビームの中間のリーチングが長く続く。後から聞きましたが、コード0(ゼロ)を揚げたヨットが一番良かったそうです。勝つにはセールも揃えないといけないみたいですね。

メインセール担当のM君が一番大変みたいです。私が、出して引いて、また出して、と指示するのでジブも常にトリム。私も日焼けを我慢して、ラムラインをずらさないように集中します。

群島に取り付いてから、RさんのアイパッドのGPS通りにマークを回ったり、島回ったり、指示されるまま。風景見たり、よそ見る暇も無く、ジェネレーターを揚げたレグでは、ステイスルも揚げようかと思っただけレグが短かったので、ドタバタするよりいいかと揚げず、何とか無事にゴールにたどり着きました。



今回の参加は大型艇18艇、小型艇23艇、マルチハル艇4艇の計45艇。私が乗艇した「那の津号」は大型艇クラスの40フィート。成績は着順12位、モノハル艇41艇中、大型艇クラス修正10位、総合順位24位でした。上位に入れなかった理由はいろいろ思い当りますが、、レーティングが思ったより高かったことも要因の一つです。

あるプロのセーラーが、今までで一番楽しかったレースだとつぶやいていました。確かに、回航に携わっていない、一定の風が一定の方向から吹く、天気が良い、Tシャツ短パンで良い、表彰式のおもてなしが良い、等により、本当に楽しいレースでした。オーナーのK君、同乗者にお世話になりました。

